

第1回鮫川村総合計画等審議会議事録

日 時:令和8年9月29日(火)

午後2時～午後3時32分

場 所:鮫川村役場2階正庁

出席者:別紙出席者名簿のとおり

進 行:我妻産業振興課長

1. 開会

開会に先立ち資料の確認をさせていただきます。

只今より、令和8年度第1回鮫川村総合計画等審議会を始めさせていただきます。

2. あいさつ 鮫川村長 宗田 雅之

本日は、お忙しい中、令和8年度第1回鮫川村総合計画等審議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、このたび委員をお引き受けいただきました皆様には、今後の村づくりにお力添えを賜りますこと、心より御礼申し上げます。

本村では現在、「まめな暮らしが息づく ふれあいの村づくり」を基本理念として、各種施策を進めております。一方で、人口減少や少子高齢化、担い手不足、物価高騰、自然災害の頻発化など、村を取り巻く環境は大きく変化しております。

本日の審議会では、まず、現在進めておりますデジタル田園都市構想総合戦略について、これまでの取組や成果、課題をしっかりと検証していただき、その結果を今後の村づくりに生かしてまいりたいと考えております。

また、令和9年度をもって現在の総合戦略の計画期間が終了することから、令和10年度を初年度とする新たな総合計画の策定を進めてまいります。

新しい計画は、今後10年間の鮫川村の将来像と村づくりの方向性を示す大変重要な計画です。行政だけでつくるのではなく、村民の皆様、若い世代、各種団体など、多くの方々の声を取り入れながら、「オールさめがわ」でつくり上げていきたいと考えております。

委員の皆様には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます、開会にあたってのあいさつといたします。

3. 委嘱状交付

代表 福島大学経済経営学類 藤原遥准教授

-委員の皆さまより自己紹介

4. 会長、副会長の選出について

5. 会長 藤原 遥 委員、副会長 石井 哲 委員(事務局案を提示により決定)

-会長、副会長からあいさつ

○藤原会長

総合計画は鮫川村の最上位計画になるので、鮫川村は何を目指すのか、実際の戦略はどういう

ものを目指すのか、そういったことを示します。その中で、現計画の効果検証や新たな総合計画策定に向けての審議を行うことになります。ですのでこの審議会は、村にとっても重要な役割を担っています。

総合計画は地方自治法の改正で必ずしも策定する必要はなくなりましたが、それでも、どの自治体も策定しています。市民参加に取り組んでいる自治体も多く、審議会やパブリックコメントを実施しています、それとは別に市民会議を立上げている自治体も5割程度あります。

鮫川村はこれまで住民参加をしてきた流れがあり、まめで達者な村づくりを通じて、住民と行政がともに学んでともに事業を実現していく関係を築いてきた背景があると思います。ですので行政が住民に寄り添って一緒に考えていこうという姿勢があると思います。

ここまで住民参加に前向きな自治体は県内でも珍しく、これまで大切に積み上げてきた姿勢と財産を引き継ぐかたちで総合計画をつくるにあたって、市民会議にあたる「さめがわ未来会議」を立ち上げることになりました。大体の市民会議はアイデアただ出して、事業実現には至らないことが多く、単なる考えてもらうだけの場を提供するのが多いですが、そうではなく実際に事業を実現していこうという意気込みでやっていただけるとのことで、私自身も期待しているところです。

審議会では計画全体について審議する場となりますが、村民の視点に立って村民の声に真摯に耳を傾けながら議論を進めていきたいと思っています。みなさんにはそれぞれご所属・専門の立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。

○石井副会長

会長とともに一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

6. 議事

(1) 鮫川村総合計画等審議会について【資料:鮫川村総合計画等審議会設置要綱(次第)】

-総合計画等審議会設置要綱について事務局中川西より説明。

(2) 鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略の効果検証について【資料:第3期鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略 令和8年度検証・評価・見直しシート、資料①】

-委員からの意見を【資料①】にそって事務局水野より説明。

◆その他意見

(藤原委員)

評価検証見直しシートにおいて、2点意見がある。1点は内部評価の理由が不明のため、費用の妥当性などもう少し客観的な視点を入れ、理由を記載してほしい。

もう1点については、今回いくつかC評価がある。なぜC評価となったのか、理由を聞かせていただきたい。

施策に係る評価については、事業費も可能な範囲で提示していただきたい。

-以下C評価であったものの回答

・学校給食の充実とミールキットの製造(産業振興課長)

大きな柱の一つではあったが、製造までは至っていない。令和5年、6年に住民を交えて検討・実証実験を行ったが、手まめ館での販売までには至っていないという理由でC評価とした。

・まちづくり、スポーツDX(教育次長)

体育施設の予約システムについて、以前、村づくり推進室で進めており、トレーニングセンターを利用する村団体が、固定(予約日が固定)されているため、システムとして機能しないので運用にはいたらなかったと話を聞いた。今後DXを進めるにあたっては、予約システムの導入よりは、たとえば村のスポーツ団体と連携したかたちで、村のスポーツ情報の発信に努めていく方向にしていきたい。

・シビックプライドの醸成(産業振興課長)

KPIの設定が5年に1度の住民アンケートとなっており、5年に1度しか結果が図れない。アンケートを実施していないのでC評価となった。目標として不適切であるため今後見直しを図る。

・地域ポイント利用者数(産業振興課長)

当時の総合戦略では、他地域の成功事例を取り入れたようだが、実情に合った取組なのかについては、再度内部で検証し実行を見直したほうが良いという判断でC評価とした。(高木委員)

最初の3ページにおいて目標値が令和9年度となっている。対して各シートの目標値は当年度か令和9年度なのか分かりにくい。どういう見方をすればよいか。

(事務局)

評価シートに記載されている目標は最終的(最終年度)の目標値である。目標はそれぞれの年度の数の合計ではない。また、各年度の目標は設定していない。

(高木委員)

当年度の目標があつての、当年度の評価であるとわかりやすい。

(矢吹委員)

パット見でわかりにくい。最終の目標値に対して毎年度の達成度がグラフなどで分かりやすく見えるとよい。

(高木委員)

村単独でなく、業務委託で動くものがある(草刈り)。外部に委託した事業の評価が低い場合に、村はどのように対応しているのか伺いたい。(次年度このようにしたほうがよいという委託先との打ち合わせなどはされるのか)

(産業振興課長)

3年計画のものについては、3年間は村から支援し翌年から自走していただくというのが本来のあるべき姿。今回については、支援した3年間についての評価となっている。今後については対話をしていきたい。

(須藤委員)

買い物弱者の支援について、特に「すまいる」という記載はなく、一般的な買い物弱者支援としての評価となっていると思われるが、「すまいる」は村の支援も受けている。この記載内容に「すまいる」は含まれているのか。

移動販売や宅配など、困っている方への支援としてお店を運営しており、困りごとの聞き取りや見守りなども行っている。さらにお困りの方がいれば声をかけていただいて、支援を広げていきたい。

(住民福祉課長)

ここで買い物弱者の支援といっているのは、自分で買い物に出かけたいという方へのボランティアなど、福祉サイド(包括支援センター)の支援に対する評価であった。「すまいる」の事業評価ではない。

現在も包括支援センターと「すまいる」とで連携を行っているが、ますます強化していきたい。

(阿久津委員)

空き家の件数は減ったのか。

(産業振興課長)

空き家はほぼ200件あるとみられたが、売却や除却、荒廃などで空き家としてみる事ができるのが、昨年度の精査の結果165件である。

(本郷委員)

高齢化により地域活動ができなくなってきた。耕地を誰が担っていくのが課題。急に耕作ができなくなってしまった土地の受け皿が必要でないか。

(産業振興課長)

地域計画(5年後、10年後)を毎年たてている。どこかで行政が組織化して農地を守ることが必要ではないかと考えている。

(村長)

農家が食べれない状態であるから、耕作放棄地が増えていく。村としては現状を受け止めてシルバー人材センターだけでは対応できない状態ですので、村での雇用を含めて検討して耕作放棄地を増やさないようにしていきたい。

(水野委員)

農家が農業収入で生活できるように、農協としても協力していきたい。

(須藤幸子委員)

文化団体は石田村長時代に創立し40年以上続いている。公民館事業としてはじまったものが現在につながっているものがほとんどである。高齢者が多く、公民館の協力がなくてやっていけないが、大集会室が使用できないため、別の部屋が使えない時は自分たちで他施設を探す必要がある。年々団体、人数が減っている状況であるが、高齢者の趣味としてとらえるのではなく、支援をいただきたい。

(教育課次長)

公民館の大集会室が現在使用できなくなっているが、なるべく早く使えるよう改修を進めている。公民館施設の利用については、担当職員が他団体と調整していくので、気軽に相談してほしい。

(矢吹委員)

農業の担い手問題が課題。70代が多く、今後が課題。兼業農家がほとんどであるが給与を資材代や機械代に充てている状況で農業だけでは生計が立てられていない。一番の課題である。自分の子に農業をしてもらうということは強く言えない。

また、人口流出が課題。鮫川村で働ける、人材育成となる事業があれば考える。

(石井委員)

学校給食のミールキットについて、令和9年度まであと1年だがどういう状況にあるか。

(産業振興課長)

ミールキットという成果品ではないが、村の食材を首都圏に向けて発信するということにおいては、東京農業大学の学生食堂に村の食材を令和7年、8年に提供させてもらった。9年度までにミールキットを完成させられるか、については不透明であるため、事業見直しをさせていただきたい。

(3) 鮫川村総合計画について

① 策定に係る諮問【別途諮問書写しのとおり】

-村長から藤原会長に諮問を行った。

② 策定基本方針(案)について【資料②】

-策定基本方針(案)について事務局水野より説明。

7. 事務連絡

- ・今回の審議会議事録については、村ホームページに公開する。
- ・次回3月の審議会については、さめがわ未来会議の結果等をふまえて開催する。

終了後、参加委員から意見

(須藤幸子さん)席が遠く先生の声が聞き取りにくかった。席を近くしていただくか、マイクを使用してほしい。